

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

オハナ上永谷保育園

横浜市港南区上永谷 1-38-13

運営主体: 社会福祉法人 葵友会

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~4 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5~7 ページ
● 分類・項目別評価結果	8~20 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	21~28 ページ
● 利用者本人調査分析	29~31 ページ
● 事業者コメント	32 ページ

公表日: 2017 年 6 月 14 日

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	オハナ上永谷保育園（保育所）		
報告書提出日	2017年5月1日	評価に要した期間	7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2016年11月4日～2017年3月1日	① 自己評価説明会后、期日を指定して常勤、非常勤全ての職員が、取り組みやすい時間帯に記入した。 ② 自己評価票を前半、後半2グループに分け、各3コマずつ設けた土曜日の参加しやすい時間帯に参加した。 ③ 常勤、非常勤、保育、給食でランダムにグループが形成され、1項目ずつそれぞれの立場での理解、認識を出し合い、園としての見解として協議、合意した。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2017年2月20日～2017年3月3日	① 全園児の保護者（82世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日:第1日 2017年3月27日 第2日 2017年3月29日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：書類調査。園長に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士3名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。 その後、園長に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日:第1日 2017年3月27日 第2日 2017年3月29日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

オハナ上永谷保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン上永谷駅から徒歩12分ほど歩いた閑静な住宅街の中にあります。園の隣には有料老人ホーム、近くには横浜市立の中学校、高校があります。

オハナ上永谷保育園は、平成18年（2006年）4月に社会福祉法人葵友会によって開設されました。運営法人は他に横浜市内に2園保育園を運営するほか、特別養護老人ホームとデイケアサービスを運営しています。

鉄筋コンクリート造り2階建ての園舎の1階部分はエントランスと駐車スペースとなっていて、事務室と保育室は2階にあります。園庭は、乳児園庭と幼児園庭に分かれています。乳児園庭には、砂場やままごとの家、幼児園庭にはアスレチックや登り棒などの遊具が設置されています。一角では、子どもたちが花や野菜を育てています。

定員は90人（産休明け～5歳児）、開園時間は、平日（月曜日～金曜日）は7時～20時、土曜日は7時～18時です。

保育理念は「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」、保育方針は「わらって、あそんで、おおきくなるよ、心あわせて」、保育目標は「いろいろなことに挑戦できる子」「自分も友達も大切に思える子」「食べることに興味関心のある子」です。

◆ 高く評価できる点

1、子どもたちは遊びを通して様々なことを学び、自分を素直に表現し、園生活を楽しんでいます

園は、子どもが落ち着いて園生活を楽しめるよう環境を整えています。乳児は、一人一人の生活リズムを大切に、小グループでの保育士とのゆったりとした関わりの中、安心して過ごしています。保育士は子どもに笑顔で接し、たくさん話しかけていて、子どもたちは保育士に甘え、言葉や表情で自分の思いを素直に表現しています。幼児は、子どもの関心や興味、やりたいと言う気持ちを大切に、保育を展開しています。保育室には、手指を使って遊ぶおもちゃや想像力を育むおもちゃ、考えて遊ぶおもちゃ、廃材や素材などが豊富に用意されていて、子どもが好きな遊びを選んで遊び込めるようになっています。自由遊びの時間には、子どもたちは、一人でゆったりと本を読んだり、廃材で工作をしたり、友だちと積木やブロックをしたり、楽器で合奏を試みたりしています。

異年齢の関わりも多く、4・5歳児クラスの子どもたちが、園行事の夏祭りを真似たごっこ遊びを企画して、射的や魚釣り、プレゼント屋さんなどのコーナーを作り、年下の子どもたちを楽しませたなどの事例がたくさんあります。日常の中でも、異年齢クラスと一緒に散歩やリズムをしたり、5歳児クラスの子どもたちが乳児クラスの子どもたちの遊びや手伝いに関わるなどしています。

食育にも力を入れていて、提供する食事を「オハナのごはん」と命名し、「おなかをすかせ、おいしく味わい、食べることに興味を持てるような食事」を目指して取り組んでいます。「食育年間計画」に沿い、食事のマナーや三色食品群について、栽培や収穫、クッキング、給食室の見学などの食育活動を実施しています。

このように、子どもたちは遊びを通して様々なことを学び成長していて、保育方針の「わらって、あそんで、おおきくなるよ、心あわせて」が実践されています。

2、保育士は方向性を共有し、目指す保育の実現を目指しています

保育理念、方針、保育目標を園内に掲示するとともに、年度末や年度初めの職員会議で確認しています。年度末の職員会議では、保育課程の見直しを行い、職員間で方向性を共有しています。年間指導計画に沿った保育の実現に向け、週案と日誌の記載方法を工夫し、年間指導計画、月間指導計画、週案が常に連動するようにしています。年度末のクラスの年間振り返りでは、カリキュラムやクラスの課題についてだけでなく、クラスで大切にしたことや新しい取り組みとその成果等についても振り返りを行い、より良い保育の実現を目指しています。

行事や防災、絵本などの係や委員活動があり、職種や経験が異なる職員でチームを組み、活動しています。例えば、防災会議は看護師、主任、給食職員、保育士で一つのチームを組み、備蓄の見直しや防災訓練の計画などに取り組んでいます。防災リュックの中味を検討したり、ライフラインが止まった状況を想定しての半日避難消火訓練、大規模地震災害を想定した地域の1000人規模の合同防災訓練に参加するなど様々な取り組みをしています。

このように、保育士は改善への意識を高く持ち、方向性を共有しより良い保育の実現に向けて連携して取り組んでいます。

3、子どものためという思いを保護者と共有し、連携しています

園は、「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」という理念のもと、保護者とともに子どもを育てることを大切にしています。

全クラス連絡帳を用いて情報交換するとともに、朝夕の送迎時には保護者とコミュニケーションを取り、子どもの様子を保護者と伝え合っています。個別面談を全クラス実施するとともに、保護者からの相談にはいつでも応じ、担任だけでなく、必要に応じて園長、主任も出席し、保護者が無理なく子育てできるよう支援しています。年2回懇談会を実施していて、保育参加と組み合わせたり、映像を用いてクラスの活動の様子を伝える等の工夫をしていて、ほとんどの保護者が参加しています。

保護者会の活動も活発で、マジック・演奏鑑賞会などの主催、園周辺の整備活動「オハナDEクリーン大作戦」の協力、「夏まつり」のゲームコーナーの出店など、職員と協力しながら、幅広い活動を行っています。

このような取り組みの結果、保護者との信頼関係が構築されていて、今回の保護者アンケートの高い総合満足度でも見る事が出来ます。

4、地域との良好な関係作りが出来ています

「地域社会で、子どもたちの豊かな未来を見守り、育て合い、育ち合う」という保育目標に基づき、地域との関係作りを力を入れています。

地域子育て支援事業としては、一時保育「さくらんぼ保育」や、園庭開放や水遊び、育児講座を行う「なかよし広場」、育児相談、運動会や夏祭りなど園の行事への招待を実施しています。育児講座は、リトミックや手遊び、運動遊び、新聞遊びなど、親子で楽しむことができる内容で、毎回10組を上限に受け入れています。また、NPO団体主催の「地域親子オハナ遠足」というイベントに協力し、地域の親子が園に遊び（遠足）に来て、園の子どもと地域の子どもと一緒に活動したり給食を食べたりしています。

地域との交流も盛んで、毎月ボランティアが来園して、昔ながらの紙芝居を子どもたちに披露しています。町内会の有志から盆踊りを教えてもらう機会などもあり、計画的に交流を図っています。3つの高齢者施設と交流していて、高齢者から昔の遊びを教えてもらったり、子どもたちが歌やダンスを披露したり、折り紙でコマを作るなどしています。散歩の途中に花を見せてもらいに立ち寄り、一緒にお年寄り散歩したりして日常的に交流している施設もあります。

◆ 独自に取り組んでいる点

1、小学校、幼稚園と日常的に連携する体制が構築されています

横浜市の幼保小連携推進地区事業として地域の小学校、幼稚園と連携したことをきっかけに、事業が終わった後も継続して連携する体制が出来ています。

小学校1、2年生とは、手作りカルタ遊びや校庭での凧揚げなどを行っています。高校の敷地内にある「ワクワク山」に小学生と一緒に遊びに行く機会もあります。小学校5年生とは、主に5歳児クラスの子どもたちが交流をしていて、小学校を案内してもらったり、手品を見せてもらったり、運動会の練習の手伝いや、散歩、ボール遊び、工作などを一緒にしています。年長児が入学した時の最上級生になる5年生との交流は、入学後の子どもたちの安心につながっています。

学校の教師との連携も盛んで、小学校の校長が5歳児クラスの懇談会に参加しています。小学校の教師が園に1日実習に来たり、保育士が学校に1日実習に行くなどの交換実習の機会や、合同研修の機会も年1回あります。合同研修では、園に小学校の教師を招いてリズムの研修を行いました。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、人材育成の仕組みを整備することが期待されます

運営法人が作成した階層別の人材育成計画があり、それに基づき個人別研修計画を作成しています。また、年2回の園長面談で目標の設定と達成度の評価を行っています。園長面談では、人事考課の自己評価項目の総括と行動基準の理解度のチェックもしています。

ただし、個々の職員の目標設定は文書としては残されていないので、共有する意味でも文書化することが期待されます。また、人事考課表で自己評価を行っていますが、人材育成計画に書かれた期待水準も職員に提示されていません。

職員自身が振り返りをし、キャリアアップにつなげることが出来るよう、人材育成計画、目標設定、自己評価がリンクした保育所としての人材育成のための仕組み作りが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育理念は「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」保育方針は「わらって、あそんで、おおきくなるよ、心あわせて」で、利用者本人を尊重したものとなっています。
- ・虐待の定義が記載された虐待防止マニュアルがあり、職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港南区こども家庭支援課やのぼこども家庭支援センター、南部児童相談所と連携しています。
- ・年度末や年度当初に「職員行動指針」を職員全体で読み合わせて、人権の尊重について意識を高めています。また、職員会議の中で、子どもに対して威圧的な言葉遣いや無視が行われないよう相互に確認するなどしています。
- ・「入園のしおり」に個人情報の取り扱いについて明記し、保護者に伝えています。また、「個人情報の取り扱いについて（同意書）」を用いて、ホームページや園内掲示物、誕生日写真、配布物などの写真使用について同意を得ています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・子どもの興味や関心を柔軟に週案に取り入れています。子どもが、廃材工作が得意なことを受けて廃材を保育室にたくさん用意し、ランドセルや靴、キリン等の製作をするなど、子どものやりたいという声を大切に、保育を展開しています。
- ・日常のなかで、子どもが自由に歌ったり、絵を描いたりしています。楽器が自由に使えるようになっており、クラスによって、ピアノやタンバリン、ハンドベル、鈴、木琴などが、子どもの手の届くところに置いてあります。また、絵の具やクレヨンなどを使う時間を設定し、子どもたちが自由な発想で絵を描いています。
- ・異年齢の子ども同士が関わりを持てるように、さまざまな機会を用意しています。日常の中では、異年齢のクラスで散歩やリズムをしたり、5歳児クラスの子どもたちが乳児クラスの子どもたちの遊びや午睡後の手伝いに関わるなどしています。朝・夕・土曜日の合同保育で一緒に自由遊びをする時間もあります。
- ・提供する食事を「オハナのごはん」と命名し、「おなかをすかせ、美味しく味わい、食べることに興味が持てるような食事」を目指して取り組んでいます。週2回は魚料理を提供し、季節感のある和食中心の献立に配慮しています。
- ・「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」という理念のもと、保護者とともに子どもを育てることを大切にしています。
- ・保護者会「マハナ会」の活動は活発で、マジック・演奏鑑賞会の主催、おはなし会（紙芝居）の主催、園周辺の整備活動「オハナDEクリーン大作戦」の協力、保護者と職員が演奏する音楽会の実施など、職員と協力しながら、幅広い活動を行っています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・0・1・2歳児には個別指導計画を作成しています。幼児についても特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。毎月、個別の目標・計画の見直しをするとともに、子どもの状況に合わせて話し合いをし、柔軟に計画の変更、見直しをしています。
- ・1年生、5年生との交流を始めとして、小学校校長による年長保護者との懇談会、年長児保護者の小学校の給食試食会、児童支援専任教諭との情報交換会など、就学に向けた取り組みをアプローチプログラムに基づき実施しています。

- ・障がいのある子どもには個別担当保育士がつき、情緒が安定して過ごせるように支援しています。保育士は、障がいのある子どものことを他の子どもが理解できるように働きかけていて、子どもたちは当たり前のこととして受け入れています。
- ・第三者委員3名を定め、氏名と役職、連絡先を玄関に掲示しています。「苦情解決の取り組みに関する実施要綱」に第三者委員を交えて対応する仕組みが明記されています。
- ・健康管理、衛生管理、安全管理などの各種マニュアルを整備し、職員に周知しています。
- ・月1回避難訓練を実施しています。地震や火災訓練を朝、夕、午睡時、土曜保育など様々な時間を想定して行っています。その他に、消火訓練、防犯訓練、広域避難場所まで行く訓練、半日避難消火訓練も実施しています。

4、地域との交流・連携

- ・横浜市や港南区の園長会、港南区の子育て支援会議、幼保小教育連携事業研究会、学校運営協議会、区の防災会議などを通して、地域のニーズを把握し、地域における園の役割について検討しています。
- ・地域子育て支援事業として、一時保育「さくらんぼ保育」や、園庭開放や水遊び、育児講座を行う「なかよし広場」、育児相談、運動会や夏祭りなどの招待を実施しています。
- ・小中高等学校など、学校教育との連携に力を入れています。近隣の小学校1、2年生とは、手作りカルタ遊びや校庭での凧揚げなどを行っています。小学校5年生とは、主に5歳児クラスの子どもたちが交流をしています。中学生とは、家庭科の授業を通して子どもたちと交流し、保育に関心のある高校生も来園しています。
- ・毎月ボランティアが来園して、昔ながらの紙芝居を子どもたちに披露しています。町内会の有志から盆踊りを教えてもらう機会などもあり、計画的に交流を図っています。
- ・3つの高齢者施設と交流しています。高齢者から昔の遊びを教えてもらったり、子どもたちが歌やダンスを披露したり、折り紙でコマを作るなどして交流しています。毎月訪問している施設もあります。

5、運営上の透明性の確保と継続性


- ・保育の専門雑誌に、小学校との連携の取り組みや保育環境の工夫など、保育の実践に関する情報を提供し、複数回掲載されています。また、園長が、小学校との交流事例について大学で発表したり、5歳児クラスの担任と栄養士がランチルームの活用方法の工夫事例を外部の研修会で発表するなど、園の取り組みを積極的に外部に提供しています。
- ・就業規則、職員行動指針に職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理などを明文化しています。職員行動指針は全職員に配付しています。
- ・資源循環局港南事務所と連携し、ゴミの減量化などについて子どもへの啓発を行う「かるがも教室」を年に数回実施しています。また、保護者会と協力し「おはなDEクリーン大作戦」として、子どもや保護者、地域ボランティアと一緒に清掃、緑化に取り組んでいます。ただし、園としての環境への考え方を明文化することはしていません。
- ・踊り場に、理念と保育方針、保育目標を掲示しています。また、保育課程に理念、保育方針、保育目標を明記し、全職員に配付しています。

6、職員の資質向上の促進


- ・運営法人が作成した階層別の人材育成計画があります。年2回の園長面談で目標の設定と達成度の評価を行っています。園長面談では、人事考課の自己評価項目の総括と行動基準の理解度のチェックもしています。ただし、個々の保育士の目標設定は文書化されていませんので、職員が自分で確認できるようより分かりやすいものにするための工夫が期待されます。
- ・理念、子どもの発達研修、不審者対応などの園内研修が実施されていて、職員、非常勤職員とも必要な

- 職員が受講しています。職員は、横浜市や港南区、白峰保育センターなどの外部研修に積極的に参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出するとともに、研修報告会で報告しています。
- 非常勤職員を含む全職員に職員マニュアルを配付しています。職員マニュアルには、理念や方針、保育課程、指導計画、職員行動指針、各種マニュアルなどが綴じ込まれています。
 - 保育士個々の自己評価をもとにクラス会議で年間振り返りを行い、クラスとしての自己評価を作成しています。年度末の職員会議では、クラスの自己評価と年度末の保護者アンケートの結果について話し合い、園としての自己評価をしています。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」保育方針は「わらって、あそんで、おおきくなるよ、心あわせて」、保育目標は「いろいろなことに挑戦できる子」「自分も友達も大切に思える子」「食べることに興味関心のある子」で、利用者本人を尊重したものとなっています。保育理念、保育方針、保育目標を園内に掲示するとともに、非常勤職員を含む全職員に配付しています。 ・保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしています。保育課程には、理念や方針に沿った保育の内容、地域や保護者との関わり方などが明記されています。年度末の職員会議で話し合い、保育課程の見直しをしています。非常勤職員に対しては、非常勤職員会議で説明し、意見を聞いています。保育課程は全職員に配付しています。保護者に対しては、園のしおりに保育課程の抜粋を掲載するとともに、入園説明会及び年度初めの懇談会で説明しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、年間食育計画を作成しています。 ・子どもの興味や関心を柔軟に週案に取り入れています。子どもが、廃材工作が得意なことを受けて廃材を保育室にたくさん用意し、ランドセルや靴、キリン等の製作をしたり、ブロックをもっとやりたいという子どもの声を受けてホールでブロック遊びを一週間かけて行うなど、子どものやりたいという声を大切に、保育を展開しています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園前に職員が保護者に面接しています。職員皆が同じ内容の聞き取りを行えるよう、事前に練習しています。面接時には子どもを連れてきてもらい、観察しています。面接時に把握した情報は面談記録に記録して個人ファイルに綴じ込み、職員間で共有しています。職員会議でも報告しています。
- ・入園前面接で保護者と話し合い、ならし保育を実施しています。ならし保育の趣旨を伝えつつ、子どもと保護者の状況に合わせならし保育の期間を設定しています。
- ・0、1歳児の新入園児に対しては、主に担当する保育士を決めています。
- ・新入園児が多い1歳児クラスは、ならし保育中は新入園児と進級児を分けています。指導計画も4月は新入園児と進級児の配慮を別にしてしています。
- ・子どもの発達や状況に合わせて、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。指導計画はクラスでの話し合いをもとに、乳児会議、幼児会議、全体会議などでカリキュラムについて話し合い、園長がチェックして作成しています。指導計画の評価、改定時には、行事後や年度末の保護者アンケートであがった保護者の意見も反映しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。


- ・清掃マニュアル、清掃チェックリストを用いて清掃が行われていて、保育園の屋内・外とも清潔に保たれています。保育室に空気清浄機を設置するとともに、まめに窓を開けて換気を行っていて、気になる臭いはありませんでした。保育室や廊下に温湿度計を置き、温度管理を行っています。エアコン、床暖房、加湿器を用いています。
- ・0歳児及び1歳児トイレには沐浴設備、乳児及び幼児園庭には、温水シャワーの設備があります。沐浴・温水シャワーの設備は清掃に保たれ、管理が行き届いています。
- ・低年齢児保育室は、棚やサークル等で仕切られていて、小グループで活動できるようになっています。乳児は、食べる・寝るの機能別空間を確保しています。幼児はホールをランチルームとして用いています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。
- (2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・0・1・2歳児には個別指導計画を作成しています。幼児についても特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。毎月、個別の目標・計画の見直しをするとともに、子どもの状況に合わせて話し合いをし、柔軟に計画の変更、見直しをしています。
- ・保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付しています。
- ・入園時に、子どもや家庭の状況・要望を児童票、入園児生活票に保護者に記載してもらっています。入園後の子どもの成長発達の様子は、経過記録に3期に分けて記載しています。子どもの記録は個別ファイルに綴じ込み、事務室の鍵のかかる棚に置かれていて、必要な職員はいつでも確認することが出来ます。進級時には、記


	<p>録とともにクラス担任間で申し送りをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生、5年生との交流を始めとして、小学校校長による年長保護者との懇談会、年長児保護者の小学校の給食試食会、児童支援専任教諭との情報交換会など、就学に向けた取り組みをアプローチプログラムに基づき実施しています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>  <p>(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。</p> <p>(4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。 ・個別のケースについて職員会議で話し合っていて、会議録があります。特に配慮を要する子どもについての情報を職員間で共有し、職員全体で見守っています。記録は事務室に置かれていて、必要な時にはいつでも確認することが出来ます。 ・園はバリアフリー構造となっていて、障がい者用のトイレもあります。玄関からは階段がありますが、園庭側の入口からは段差なく保育室に入ることが出来ます。 ・保育士は、横浜市や港南区、よこはま港南地域療育センターなどの研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は報告書を提出するとともに研修報告会で報告し、職員間で共有しています。 ・障がいのある子どもには個別担当保育士がつき、情緒が安定して過ごせるように支援しています。保育士は、障がいのある子どものことを他の子どもが理解できるように働きかけていて、子どもたちは当たり前のこととして受け入れています。 ・声の大きさ表、今日の流れ、準備や片付けの仕方などを可視化するなど、子どもが視覚で理解できるよう可視化するなど、子どもが落ち着いて活動できるよう環境整備をしています。就学に備え、ユニバーサルデザインを小学校と共有しています。 ・虐待の定義が記載された虐待防止マニュアルがあり、職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港南区こども家庭支援課やのぼこども家庭支援センター、南部児童相談所と連携しています。 ・子どものかかりつけ医の記載した生活管理指導表に基づき、除去食を提供しています。アレルギー対応マニュアルがあり、全職員に配付しています。保護者にアレルギー食材を記載した献立表を毎月配布し、チェックしてもらっています。必要に応じて個別面談を実施しています。除去食を提供する場合には、別盆、食札、食材別に色を変えた食器を用い、ワゴンにのせる時、給食職員からの引渡し時、クラス内での提供時、お代りの提供時に職員間で声をかけ合って確認しています。 ・文化や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。保育園で用いる用語が数か国語で書かれたマニュアルを準備しています。今まで意思疎通が困難なケースはありませんが、今後全く日本語が通じない保護者が入園した場合には、国際交流ラウンジに相談する予定です。
<p>I-6 苦情解決体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決責任者は園長、苦情受付担当者は主任で入園のしおりに



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- 記載するとともに、玄関に掲示し保護者に周知しています。
- ・第三者委員 3 名を定め、氏名と役職、連絡先を玄関に掲示しています。「苦情解決の取り組みに関する実施要綱」に第三者委員に直接苦情を申し立てることができることが明記されています。
 - ・年 2 回懇談会を実施しています。行事後と年度末に保護者アンケートを実施しています。保護者会の意見箱があり玄関に置かれています。
 - ・横浜市福祉調整委員会のポスターを玄関に掲示し、保護者に紹介しています。
 - ・要望や苦情はミーティングや職員会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。 (2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。 (3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。 (4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。 (5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。 (6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスは、個々の生活リズムを考慮した保育環境の構成を意識しています。幼児クラスでは、遊びのコーナーを意識した環境構成を目指しています。 ・園庭は、主に乳児クラスが使う場所と、幼児クラスの場所を用意していて、乳児クラスの園庭には、砂場やままごと用の家などを設置しています。幼児クラスの園庭には、鉄棒や登り棒、雲梯などを設置し、年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮しています。ホールで、リズムや体操をしたり、巧技台を用いるなど、屋内で体を動かすことができるような環境も設定しています。 ・子どもが自分の好きなことをして遊べる時間を確保しています。手指を使って遊ぶ玩具や、創造力を育む玩具、考えて遊ぶ玩具、素材や廃材、布・ペットボトル・牛乳パックなどを利用した手作り玩具などを豊富に取り入れて、子どもたちが遊びこめるようにしています。作り途中の作品やブロック、積木などを棚の上に置いて、次の自由時間に継続して作ることができるようにしており、子どもが乗ることができる大きさのキリンを牛乳パックで作るなど、日数をかけて大きな作品を作りあげることもあります。 ・一斉活動やルールのある遊びとして、リズムや鬼ごっこ、ゲーム、ドッチボール、大縄跳び、季節の製作などを年齢や発達に合わせて取り入れています。 ・キュウリやナス、トマト、ホウレンソウ、ラディッシュ、人参などを園庭で栽培しています。収穫した野菜をその場で洗って食べたり、給食の食材として調理し提供しています。チューリップやヒマワリ、アサガオなどの栽培も行っています。保育室では、カブトムシやメダカなどを飼育しています。幼虫が蝶々になるまで観察をするなど、栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしています。

- ・日常のなかで、子どもが自由に歌ったり、絵を描いたりしています。楽器が自由に使えるようになっており、クラスによって、ピアノやタンバリン、ハンドベル、鈴、木琴などが、子どもの手の届くところに置いてあります。また、絵の具やクレヨンなどを使う時間を設定し、子どもたちが自由な発想で絵を描いています。描いた絵や作品は、その日のうちに廊下に掲示して、保護者の目を楽しませています。
- ・異年齢の子ども同士が関わりを持てるように、さまざまな機会を用意しています。



4、5歳児クラスの子どもたちが、園行事の「夏まつり」を真似たごっこ遊びを企画して、射的や魚釣り、プレゼント屋さんなどのコーナーを作り、年下の子どもたちを楽しませています。ラーメン屋さんごっこでは、調理やセッティングを5歳児クラスが担当し、4歳児クラスは券売を担当し、3歳児クラスでは箸おきをつくるなどして、2歳児クラスの子どもたちを招いています。日常の中では、異年齢のクラスで散歩やリズムをしたり、5歳児クラスの子どもたちが乳児クラスの子どもたちの遊びや午睡後の手伝いに関わるなどしています。朝・夕・土曜日の合同保育で一緒に自由遊びをする時間もあります。
- ・発達段階に応じて運動能力を高められるように、全てのクラスでリズムを行っています。朝の自由時間やクラスの活動でリズムを取り入れていて、異年齢でリズムを行う機会も持っています。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・提供する食事を「オハナのごはん」と命名し、「おなかをすかせ、美味しく味わい、食べることに興味が持てるような食事」を目指して取り組んでいます。週2回は魚料理を提供し、季節感のある和食中心の献立に配慮しています。
- ・子どもたちが食事及びその過程に関心を持つことができるように「食育年間計画」を立てています。年齢や発達段階に合わせて、「コップで飲もうとする」「スプーンを逆手握りで持ち食事をする」「米研ぎをする」「三色食品群をもとに栄養素について知る」「栽培、収穫活動をする」「カレー作りをする」「給食室の見学をする」など、計画のもと実施しています。
- ・乳児の授乳は、一対一で抱っこをして、ゆったりとした雰囲気の中で行っています。また、保護者の意向に応じて、母乳の受け入れも行っています。
- ・3歳児クラスになると、バイキング形式で給食を取るようになります。子どもたちは、保育士に食べられる量を伝えてよそってもらったり、見本を参考にして、自分でよそうなどしていました。
- ・行事食として、ひなまつりには三色の菱寿司、6月には、かたつむりの形のロールケーキ、夏にはひまわりをデザインしたカレーなど、子どもたちが季節を感じながら、楽しくおいしく食事ができるように工夫しています。
- ・給食会議や日々の意見交換などを通して、保育士と栄養士などの給食職員が、子どもたちの嗜好について情報共有しています。給

	<p>食会議では、子どもたちが食べにくかった食事の調理方法や切り方などについて意見交換し、食事に反映させています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食を試食する機会として、春の懇談会と保育参加で昼食を提供しています。冬のオハナ会（お楽しみ会）ではおやつを提供し、保育室をカフェのような雰囲気にして、親子を招待しています。 ・乳幼児突然死症候群の対策として、0、1歳児クラスでは5分おきに呼吸チェックを行い、記録に残しています。2歳児クラスでは、夏に入る前まで呼吸チェックを行っています。 ・就学を見据えた5歳児クラスの午睡については、1月から減らしていくこととしています。 ・トイレトレーニングは、急がせないことに注意しながら、個別に対応しています。トイレに興味が出てくる1歳児クラスの夏頃からトイレに座ってみるようにして、3歳児クラスになるとパンツに移行する子どもが多くなっています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康マニュアル」を整備し、けがの対応や与薬、アレルギー児対応、睡眠チェックなどの手順を定め、一人一人の健康状態を把握しています。「入園のしおり」に保健・衛生について掲載し、保護者に知らせています。 ・歯磨き指導は、3歳児クラスから取り入れています。歯科医師と歯科衛生士が来園して、歯の絵本を読み、座って磨く練習をしています。 ・毎月の身体測定、年2回の健康診断などの健診結果を、「健康記録」に残しています。 ・「感染症マニュアル」には、予防対策や健康チェック、嘔吐時の対応、消毒方法、感染症の種類などを明記しています。入園時に保護者に渡す「入園のしおり」に、感染症発症時の登園停止日数や登園許可証明書、治癒届などを付けて保護者に知らせています。また、「ほけんだより」を発行して、感染症予防や健康についての最新情報を保護者に提供しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「衛生管理マニュアル」や「環境整備・安全点検表」「衛生管理チェック表」に基づき、衛生管理を行っています。 ・マニュアルに沿って清掃が行われるように、「環境整備・安全点検表」を活用しています。日々の掃除や毎週末の玩具消毒のほか、年3回程度大掃除を行っています。子どもによる大掃除も年2回行っており、雑巾がけを丁寧にする子どもの様子が見られました。 ・「オハナ DE クリーン大作戦」と名付けて、2ヶ月に1回程度、子どもと職員、保護者、地域の人々が協力して、花壇を中心に園周辺的环境整備を行っています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・「防災対応マニュアル」を整備し、地震や火災等の避難の手順を明確にしています。保護者には、「入園のしおり」を通して、防災の取り組みについて伝えています。
- ・非常用持出袋やヘルメット、非常時にすぐに履ける子ども用の靴などをすぐ使える場所に置いています。また、保育室の電話口には119番通報要領を掲示して、有事の際に速やかに通報できるようにしています。
- ・月1回避難訓練を実施しています。地震や火災訓練を朝、夕、午睡時、土曜保育など様々な時間を想定して行っています。その他に、消火訓練、防犯訓練、広域避難場所まで行く訓練、半日避難消火訓練も実施しています。半日避難消火訓練では、ライフラインが停止したことを想定して、給食をガスコンロで調理したり、発電機を使うなどしています。無理の無い範囲で引き取り訓練も行っています。地域で行う1,000人規模の合同防災訓練にも参加しています。
- ・事故は職員間で報告・共有し再発防止策を検討・実行しています。また、ヒヤリとしたことやハツとしたことを記録して、事務室のホワイトボードに掲示して共有しています。
- ・園舎の入り口には、ICカードで解錠する仕組みになっていて、不審者等の侵入防止策を講じています。また、保護者にはネームタグを首から下げてもらうようお願いをしています。園内5箇所に防犯カメラを設置しています。

Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・年度末や年度当初に「職員行動指針」を職員全体で読み合わせて、人権の尊重について意識を高めています。また、職員会議の中で、子どもに対して威圧的な言葉遣いや無視が行われないよう相互に確認するなどしています。
- ・子どもを必要以上にせかすことが無いように、次の行動や終了時間を前もって知らせています。保育士は、子どもに目線を合わせて分かりやすい言葉で話している様子が見られました。
- ・必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所として、各保育室のコーナーや廊下、テラス、ホールなどがあります。
- ・「入園のしおり」に個人情報の取り扱いについて明記し、保護者に伝えています。また、「個人情報の取扱いについて（同意書）」を用いて、ホームページや園内掲示物、誕生日写真、配布物などの写真使用について同意を得ています。
- ・無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、気がついた点があれば園長や主任から指導をしています。
- ・整列の順番や名簿などを男女別にはしていませんが、保育の中で、男女別のグループに分けている様子が見られました。



Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3)保護者の相談に応じているか。
- (4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- ・「オハナは家族。子どもも大人もしあわせに」という理念のもと、保護者とともに子どもを育てることを大切にしています。
- ・「保育園に関する保護者アンケート」や、行事後のアンケートなどを通して、保育理念や方針の理解度や意向を把握しています。
- ・連絡帳は年齢にかかわらず全員が持っており、連絡帳を活用して、園での子どもの状況と家庭での情報を密に共有しています。0歳児クラスは複写式のものを利用し、1、2歳児クラスは1枚ずつの記入用紙を用いています。3歳児クラス以上では、ノートを活用しています。連絡帳の書き方については、入園時に見本を提示しています。
- ・メールを使った情報提供も行っています。
- ・年1回、保護者全員と個別面談を実施しています。
- ・懇談会を、年2回実施し、園やクラスの様子を保護者に伝えています。2月の懇談会では、映像で各クラスの様子を保護者に伝え、撮りためてあった写真を掲示していて、ほとんどの保護者が出席しています。5歳児クラスの陶芸教室には保護者も参加できるようにしたり、祖父母向けの企画「コスモスの会」もあります。
- ・他の人に聞かれることなく保護者が相談できるように、相談室を利用できるように配慮しています。
- ・園だより「おはなのかぜ」「クラスだより」を毎月発行しています。「おはなのかぜ」は、園長のメッセージや各クラスの様子から始まり、お知らせ、保護者会のお知らせ、職員紹介などを掲載しています。
- ・3月に主な行事の予定表を保護者に渡し、保護者が休暇等の予定を立てやすくしています。園だよりには、2ヶ月分の行事を掲載するなどの工夫もあります。
- ・保護者会「マハナ会」の活動は活発で、マジック・演奏鑑賞会の主催、おはなし会（紙芝居）の主催、園周辺の整備活動「オハナDEクリーン大作戦」の協力、「夏まつり」のゲームコーナーの出展、保護者と職員が演奏する音楽会の実施など、職員と協力しながら、幅広い活動を行っています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域社会で、子どもたちの豊かな未来を見守り、育て合い、育ち合う」という理念に基づき、地域子育て支援事業を利用する保護者にアンケートを実施したり、町内会や近隣の小学校、中学校、高校との交流などを通して、地域のニーズを把握しています。 ・横浜市や港南区の園長会、港南区の子育て支援会議、幼保小教育連携事業研究会、学校運営協議会、区の防災会議、地域の防災ボランティア会議などを通して、地域のニーズを把握し、地域における園の役割について検討しています。 ・地域子育て支援事業として、一時保育「さくらんぼ保育」や、園庭開放や水遊び、育児講座を行う「なかよし広場」、育児相談、運動会や夏祭りなどの招待を実施しています。 ・育児講座を年３回程度実施しています。リトミックや手遊び、運動遊び、新聞遊びなど、親子で楽しむことができる内容で、毎回１０組を上限に受け入れています。また、NPO 団体主催の「地域親子オハナ遠足」というイベントに協力し、地域の親子が園に遊び（遠足）に来て、園の子どもと地域の子どもと一緒に活動したり給食を食べたりしています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談を随時受け付けています。園庭開放を利用する保護者から、子育てに関する相談を受けることが多く、相談を受けた際には、担当者に対応して記録に残し、園長や主任と共有しています。 ・地域子育て支援事業に関する情報は、園の前にある掲示板やホームページなどを活用して、地域に提供しています。 ・港南区福祉保健センターやよこはま港南地域療育センター、南部児童相談所、のぼこども家庭支援センターなどと、日常的な連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や夏まつりなどの行事に地域住民を招待しています。 ・小中高等学校など、学校教育との連携に力を入れています。近隣の小学校1、2年生とは、手作りカルタ遊びや校庭での凧揚げなどを行っています。小学校5年生とは、主に5歳児クラスの子どもたちが交流をしていて、小学校を案内してもらったり、手品を見せてもらったり、運動会の練習の手伝いや、散歩、ボール遊び、工作などを一緒にしています。中学生とは、家庭科の授業を通して子どもたちと交流し、保育に関心のある高校生も来園しています。高校の敷地内にある「ワクワク山」に小学生と一緒に遊びに行く機会もあります。 ・近隣の小学校や保育園、幼稚園と協力して、幼保小総合防災訓練を行っています。また、毎月ボランティアが来園して、昔ながらの紙芝居を子どもたちに披露しています。町内会の有志から盆踊りを教えてもらう機会などもあり、計画的に交流を図っています。 ・学校の教師との連携として、小学校の校長が5歳児クラスの懇談会に参加しています。小学校の教師が園に1日実習に来たり、保育士が学校に1日実習に行くなどの交換実習の機会や、合同研修の機会も年1回あります。合同研修では、園に小学校の教師を招いてリズムの研修を行いました。 ・3つの高齢者施設と交流しています。高齢者から昔の遊びを教えてもらったり、子どもたちが歌やダンスを披露したり、折り紙でコマを作るなどして、毎月訪問している施設もあります。地域年長保育園の交流として、5歳児クラスの子どもたちが他園でどろんこ遊びをしたり、音楽会に招待してもらうなど、行き来しています。小学生と交流する機会も毎月複数回あります。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門雑誌に、小学校との連携の取り組みや保育環境の工夫など、保育の実践に関する情報を提供し、複数回掲載されています。5歳児クラスの子どもたちと小学校5年生の交流などについて雑誌を通して紹介しています。 ・園長が、小学校との交流事例について、大学で発表したり、5歳児クラスの担任と栄養士がランチルームの活用方法の工夫事例を、外部の研修会で発表するなど、園の取り組みを積極的に外部に提供しています。 ・見学については、希望を聞いて個別に対応したり、10名程度のグループで受け入れたりして、年間100組以上の見学対応を行っています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居ボランティア「ぐり・ぐらの会」、陶芸指導のボランティア、空手指導のボランティア、町内会有志の盆踊り指導のボランティア、園周辺的环境整備を手伝うボランティア、中高生のボランティアな



(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

(2)実習生の受け入れを適切に行っているか。

ど、幅広いボランティアの協力を得ています。

- ・「ボランティア受け入れについて」で、ボランティアの受け入れ手順を明確にするとともに、「ボランティアの皆様へ」、「体験学習の皆様へ」を用いて、園の方針や配慮事項をボランティアに対して説明しています。
- ・実習生の受け入れは主任が担当しています。実習は担任が関わり、記録に残しています。
- ・オリエンテーションの際に実習生の希望を確認し、実習の目的に応じた実習内容になるように工夫しています。園では、じっくり保育に関わってほしいという考えから、1つのクラスに1週間程度入ることを推奨しています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類

評価の理由（コメント）

V-1 職員の人材育成



(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。

(2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。


(3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。

- ・運営法人が作成した階層別の人材育成計画があります。年2回の園長面談で目標の設定と達成度の評価を行っています。園長面談では、人事考課の自己評価項目の総括と行動基準の理解度のチェックもしています。ただし、個々の保育士の目標設定は文書化されていないので、職員が自分で確認できるようより分かりやすいものにするための工夫が期待されます。
- ・研修担当は園長、主任で個人別の研修計画を作成しています。研修計画には経験年数、学んでほしい事項、研修内容が記されています。
- ・理念、子どもの発達研修、不審者対応などの園内研修が実施されていて、職員、非常勤職員とも必要な職員が受講しています。職員は、横浜市や港南区、白峰保育センターなどの外部研修に積極的に参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出するとともに、研修報告会で報告しています。園長、主任は研修報告書をチェックし、研修の成果を評価し、研修内容の見直しをしています。
- ・非常勤職員を含む全職員に職員マニュアルを配付しています。職員マニュアルには、理念や方針、保育課程、指導計画、職員行動指針、各種マニュアルなどが綴られています。
- ・業務にあたっては、必ず職員と非常勤職員が組むようにしています。非常勤職員の指導担当は園長、主任で、職員間のコミュニケーションが図られています。
- ・園は、非常勤職員とのコミュニケーションを図る為、職員マニュアルの整備や申し送り表や申し送りノートの徹底などの取り組みを進めています。また、非常勤説明会を行い、職員マニュアルの読み合わせをするとともに、非常勤職員の意見を聞いています。


V-2 職員の技術の向上



- ・人事考課表には評価基準に基づくモデル行動と標準行動が記されていて、それに基づいて保育士が自己評価をしています。
- ・日誌、年間指導計画、月間指導計画などには、自己評価の欄があり、定型化されています。自己評価は計画で意図したねらいと関連付けて

<p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p> <p>(2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。</p> <p>(3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<p>行われています。保育士は子どもの意見や心情、意欲などを大切に保育にあたっていて、自己評価もその視点に沿って行われています。自己評価の結果は、次期の指導計画の作成に反映されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士個々の自己評価をもとにクラス会議で年間振り返りを行い、クラスとしての自己評価を作成しています。年度末の職員会議では、クラスの自己評価と年度末の保護者アンケートの結果について話し合い、園としての自己評価をしています。自己評価の結果から、園としての課題を明らかにし、改善に向けて取り組んでいます。ただし、保護者アンケートの集計結果とそれに対する園の振り返りは公表していますが、園としての自己評価を公表することはしていません。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画には、初任者、中堅、主任・ベテラン、管理職の階層ごとに、求められる経験・能力が明文化されています。 ・組織図を作成して係や役割を明確にし、可能な限り権限を職員に委譲しています。職員会議や非常勤職員説明会で業務改善への提案を募っています。会議では、皆が意見を出しやすいよう、気付きや意見をメモで出してもらうなど工夫しています。年2回の園長面談を実施するとともに、園長は、日常的に職員に声をかけ、意見を引き出すように努めています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則、職員行動指針に職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理などを明文化しています。職員行動指針は全職員に配付しています。横浜市や港南区、新聞記事などから得た他施設での不正、不適切な事案は掲示するとともに、職員会議やミーティングなどで職員に周知しています。 ・経営、運営状況等の公開はしていません。 ・子どもと一緒にゴミの分別をしています。廃材を積極的に製作の素材として用いています。また、手作りおもちゃにも廃材を用いています。資源循環局港南事務所と連携し、ゴミの減量化などについて子どもへの啓発を行う「かるがも教室」を年に数回実施しています。 ・保護者会と協力し「おはな DE クリーン大作戦」として、子どもや保護者、地域ボランティアと一緒に清掃、緑化に取り組んでいます。 ・ただし、環境への考え方や取り組みを明文化することにはしてないので、指導計画やお便りで園の環境についての考え方を明らかにすることを期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・踊り場に、理念と保育方針、保育目標を掲示しています。また、保育課程に理念、保育方針、保育目標を明記し、全職員に配付しています。入職時の研修で、理念や方針について説明するとともに、年度末及び



(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

年度初めの職員会議で確認しています。非常勤職員に対しては、年度末の非常勤説明会で周知しています。

- ・重要な意思決定にあたり、職員には職員会議で目的や理由を説明しています。保護者に対しては、保護者会で継続的に意見交換しています。また、お手紙や懇談会で理由や経過を保護者に報告しています。
- ・保育士、給食職員、看護師、主任で編成する防災会議を定期的に開催し、防災に向けての整備を進めるなど、異なる部門の職員でチームを編成し組織をあげて取り組んでいます。
- ・運営法人の人材育成計画に基づき、上級者研修（主任育成研修）を実施するなど、主任クラスを計画的に育成するプログラムがあります。主任は、保育の中に入り、職員の業務状況を把握しています。主任は、クラスリーダーと連携し、職員個々に応じた指導をしています。主任は、職員の様子を見守り、必要に応じて声をかけて相談にのるなど、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。

VI-3 効率的な運営



(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

(2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

・園長は、港南区や横浜市の園長会、町内会の会議、学校運営協議会、幼保小教育連携事業研究会、区の防災会議、地域防災ボランティア会議などに参加し、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。重要な情報について主任と協議し、重点改善課題として設定しています。運営面での重要な改善課題は、職員会議で報告し、保育園全体の取り組みとしています。

・運営法人が作成した中長期計画に基づき、年度ごとの事業計画を作成しています。

・園長は、異業種交流会議等に参加し、次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを検討しています。

・運営法人は、人材育成計画に基づき次代の管理職を育成しています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2017年2月20日～3月3日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 78.0%（82枚配付、64枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…6人、1歳児クラス…11人、2歳児クラス…16人、3歳児クラス…13人、
4歳児クラス…9人、5歳児クラス…9人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

- ・園の保育目標、保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は90.6%で、その中で「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えた保護者の割合は98.3%で、支持率は大変高くなっています。
- ・項目の中で満足度が比較的高いのは、「施設設備について」の100%、「給食の献立内容について」「お子さんが給食を楽しんでいるか」「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」の98.4%、「費用やきまりに関する説明について」「クラスの活動や遊びについて」「園のおもちゃや教材について」「園外活動について」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の96.9%です。
- ・一方、不満の割合が比較的高いのは、「送り迎えの際のお子さんに関する情報交換について」の20%、「感染症などの情報提供について」「お子さんに関する重要な情報の連絡体制」の12.5%です。
- ・「アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮について」は満足度が81.3%と比較的低いですが、「その他」「無回答」が合わせて18.8%となっていて、自由意見にも「分かりません」という記述が複数あります。
- ・総合的な満足度は「満足」（81.3%）、「どちらかといえば満足」（17.2%）合わせて98.5%と大変高くなっています。
- ・自由記述欄には、多くの意見が寄せられていて、保護者の関心の高さがうかがわれます。「子ども一人一人をよく見てもらえている」「環境・設備・先生に恵まれていてとても良いと思っています」などの感謝の言葉が数多く寄せられています。また、保育士の入れ替わり、送り迎え時のコミュニケーションなど、様々な意見があります。

◆まとめ

- ・全37項目中、満足度90%以上の項目が26項目あります。中でも問4「遊び」については、全項目が90%以上となっていて、保護者が子どもの様子を見て安心し満足していることが、高い総合満足度につながっていることが読み取れます。
- ・「送り迎え時の情報交換」を始めとし、不満度が10%以上の項目は保護者への情報提供や保護者とのコミュニケーションに関わるものとなっています。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2017年2月20日～3月3日

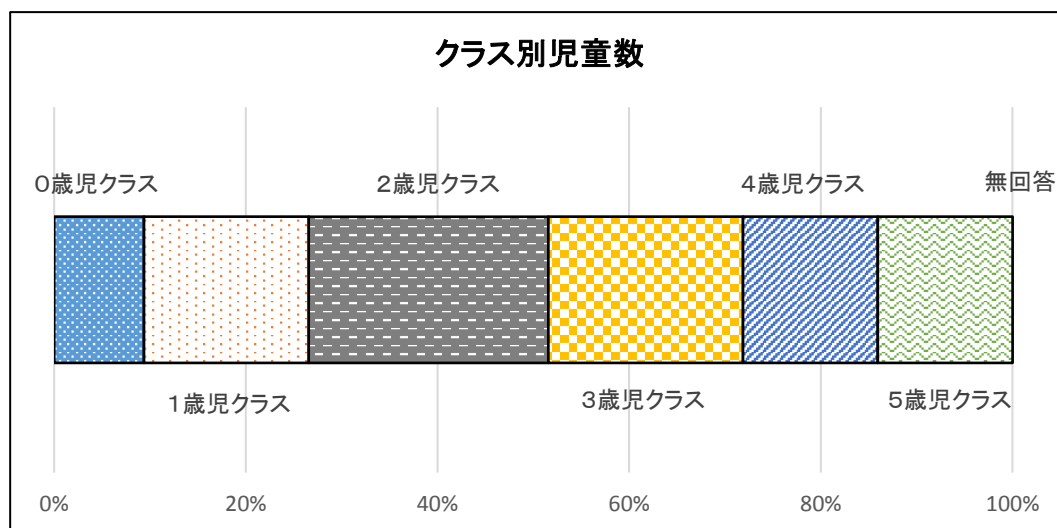
回収率：78.0%（回収64枚／配付82枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
64	6	11	16	13	9	9	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

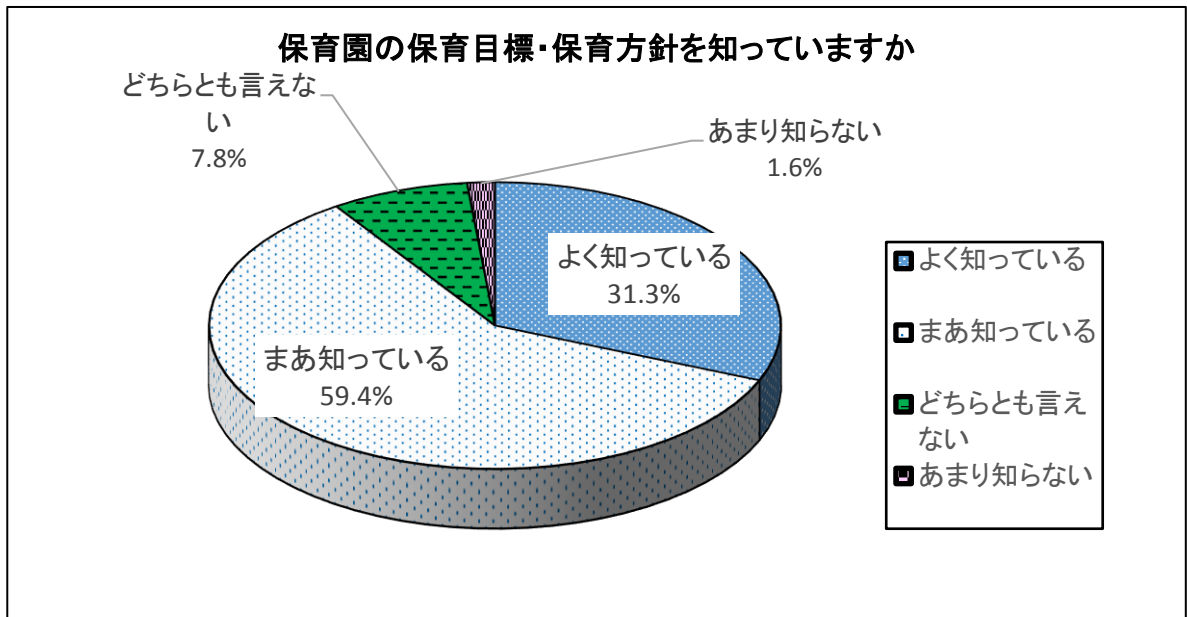


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	31.3%	59.4%	7.8%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%

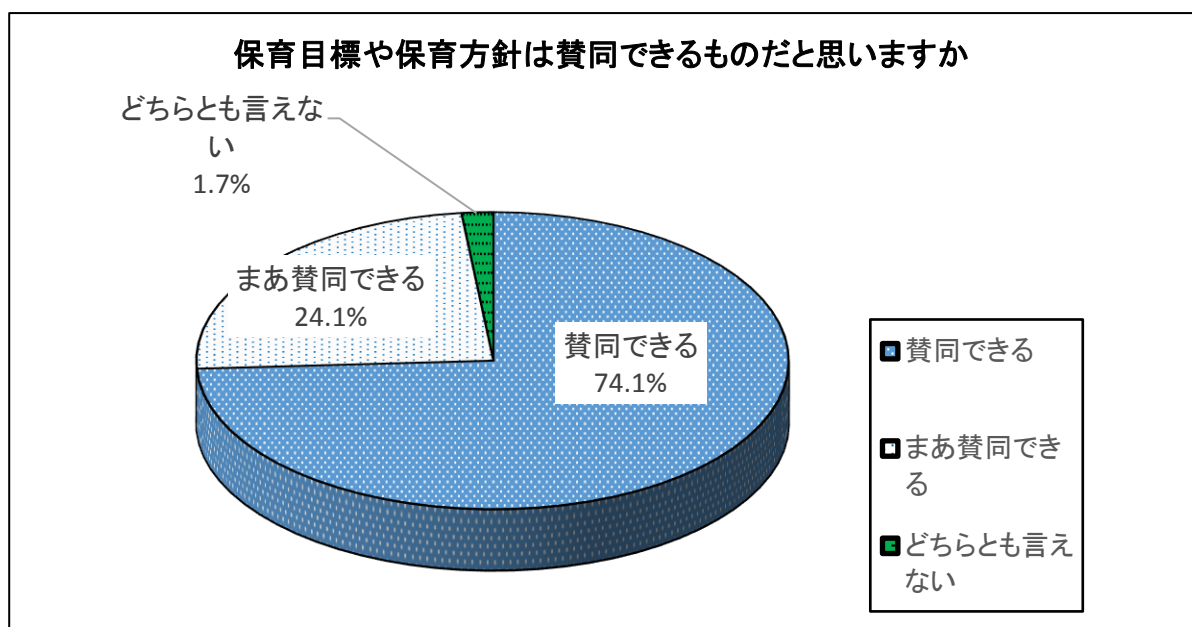
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	74.1%	24.1%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

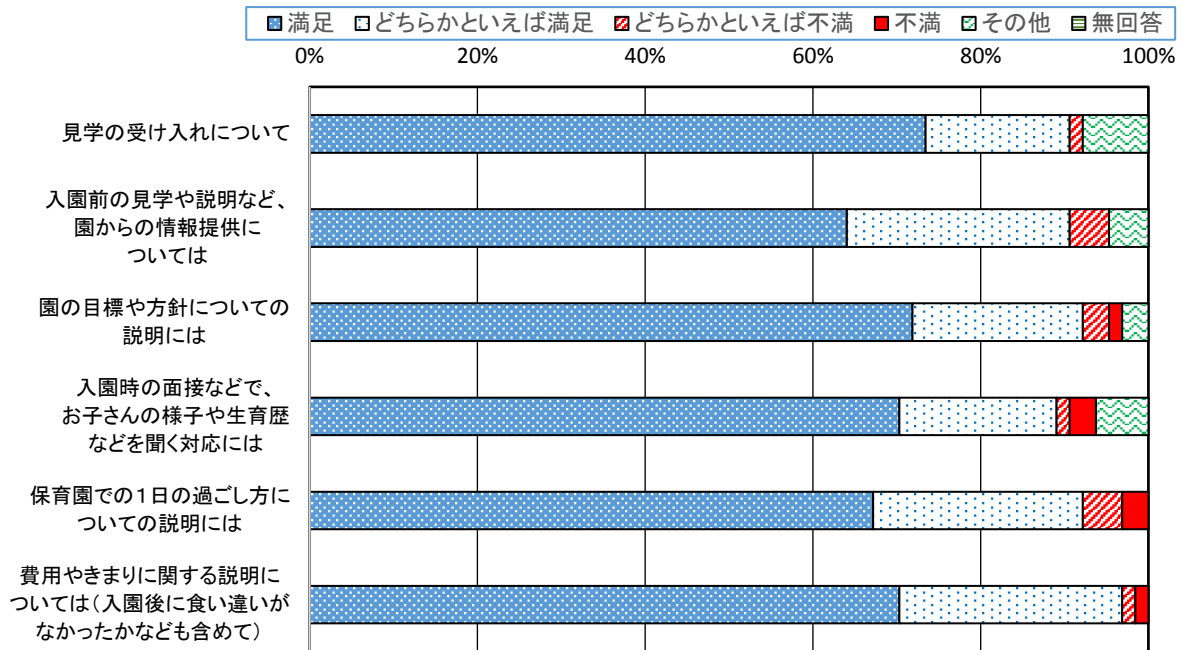


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	73.4%	17.2%	1.6%	0.0%	7.8%	0.0%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	64.1%	26.6%	4.7%	0.0%	4.7%	0.0%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	71.9%	20.3%	3.1%	1.6%	3.1%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70.3%	18.8%	1.6%	3.1%	6.3%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	67.2%	25.0%	4.7%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	70.3%	26.6%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%

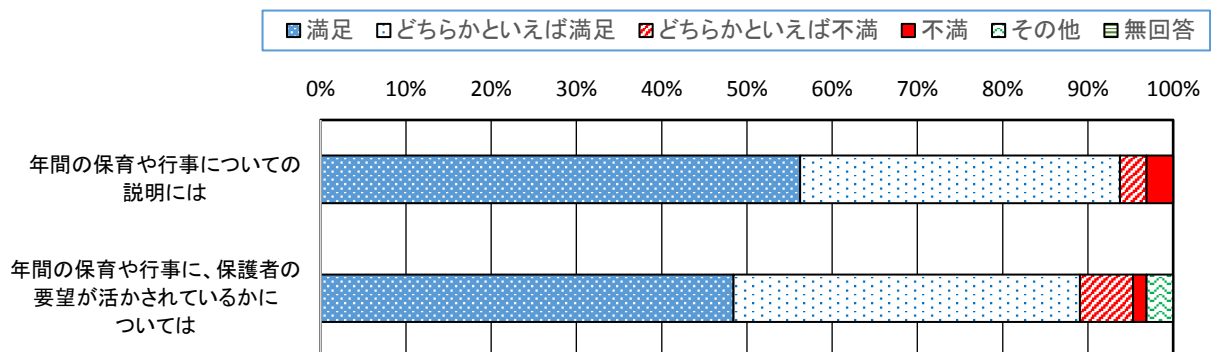
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	56.3%	37.5%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	48.4%	40.6%	6.3%	1.6%	3.1%	0.0%	100.0%

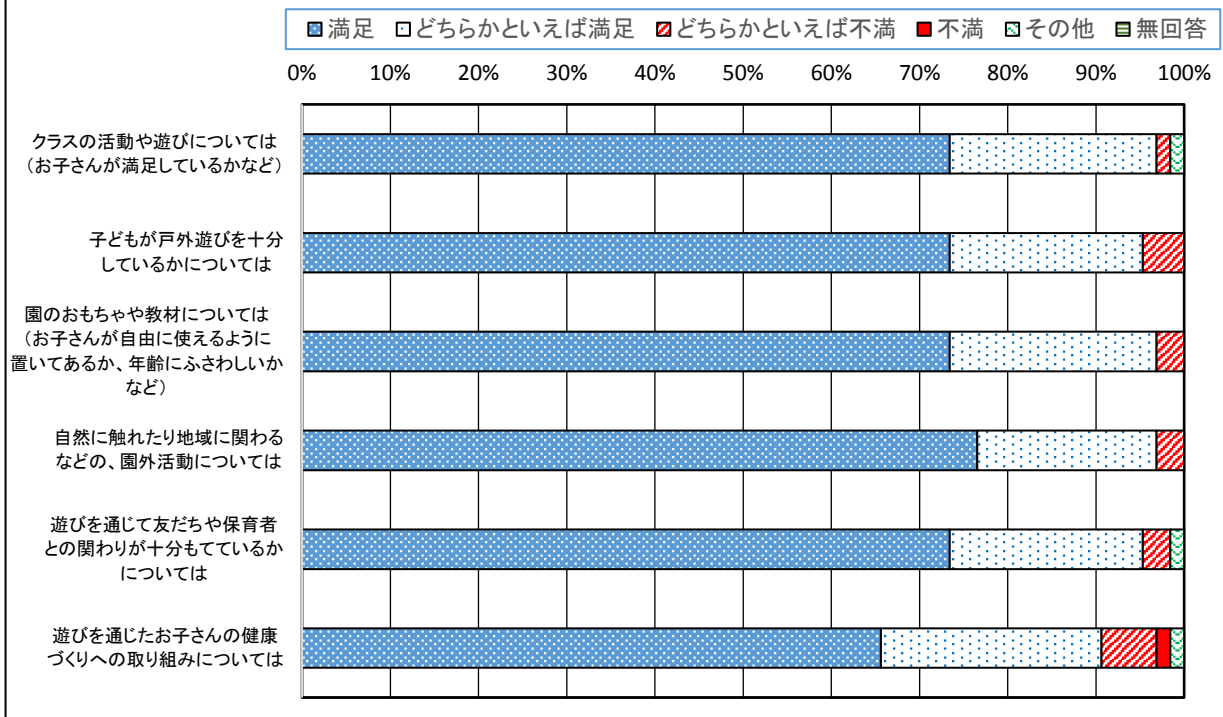
年間の計画について



問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	73.4%	23.4%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	73.4%	21.9%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	73.4%	23.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	76.6%	20.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	73.4%	21.9%	3.1%	0.0%	1.6%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	65.6%	25.0%	6.3%	1.6%	1.6%	0.0%	100.0%

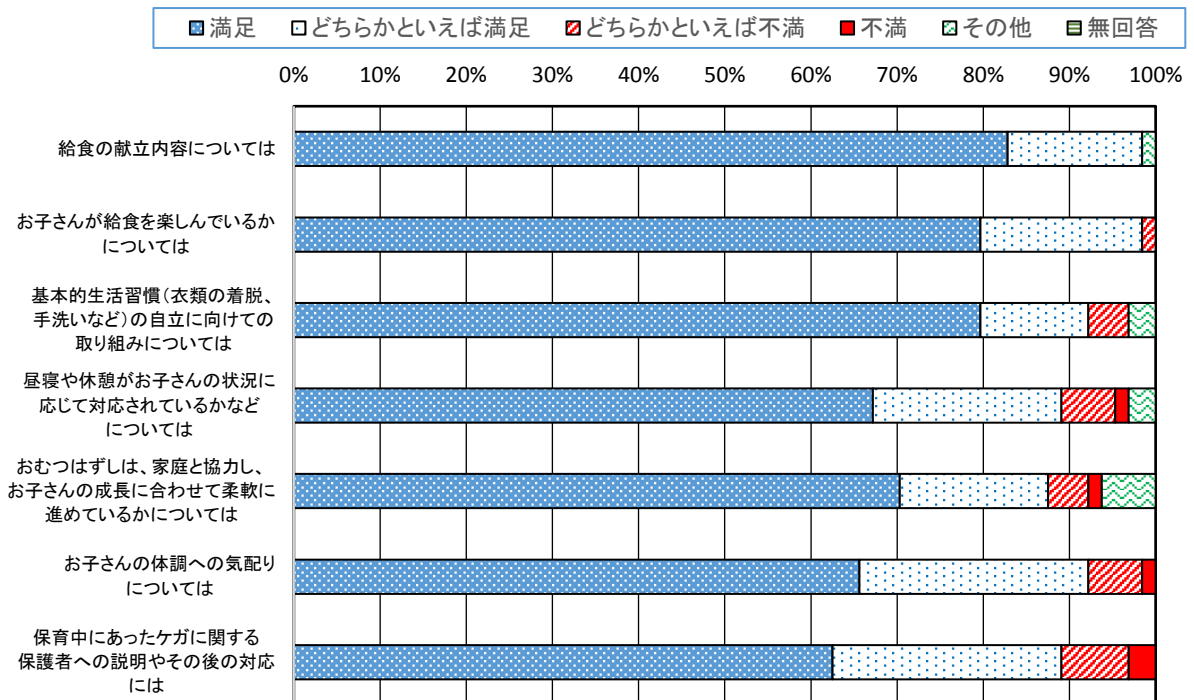
日常の保育内容「遊び」について



●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	82.8%	15.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	79.7%	18.8%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	79.7%	12.5%	4.7%	0.0%	3.1%	0.0%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	67.2%	21.9%	6.3%	1.6%	3.1%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	70.3%	17.2%	4.7%	1.6%	6.3%	0.0%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	65.6%	26.6%	6.3%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中であつたケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.5%	26.6%	7.8%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%

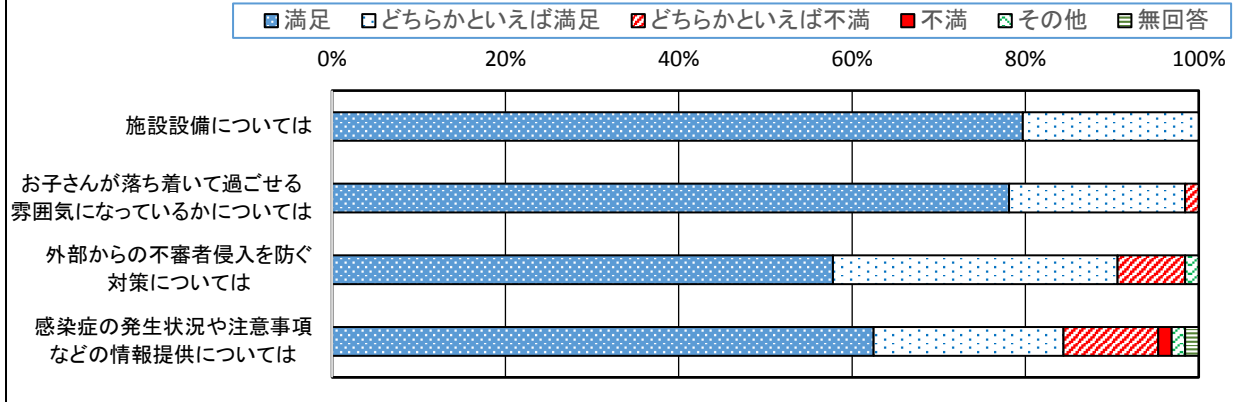
日常の保育内容「生活」について



問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	79.7%	20.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	78.1%	20.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	57.8%	32.8%	7.8%	0.0%	1.6%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	62.5%	21.9%	10.9%	1.6%	1.6%	1.6%	100.0%

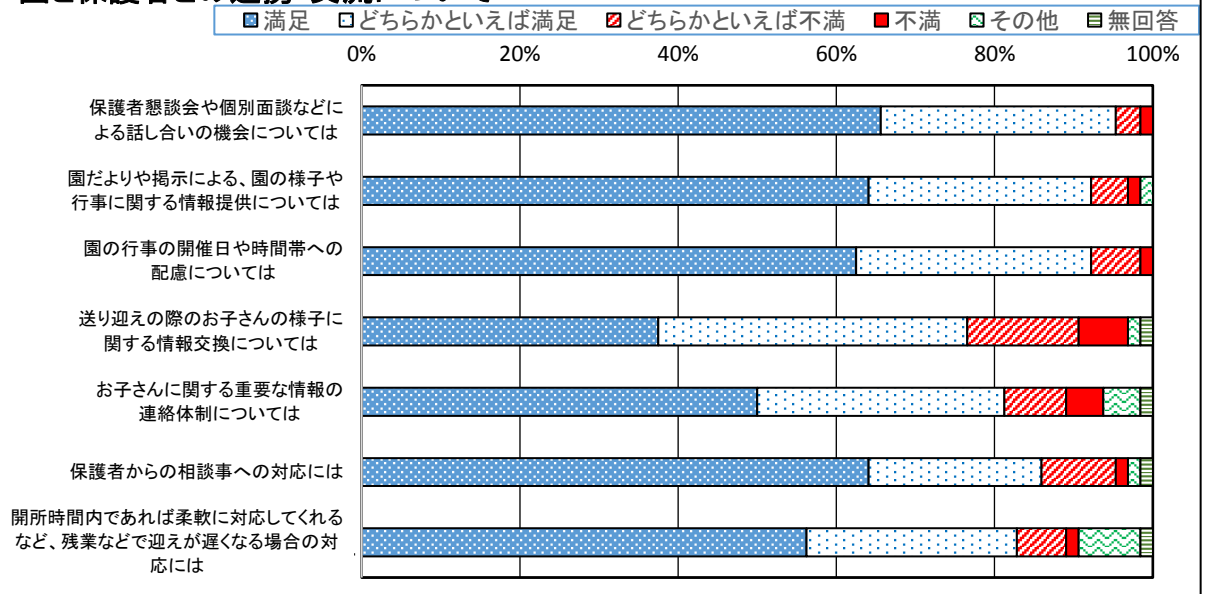
快適さや安全対策などについて



問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

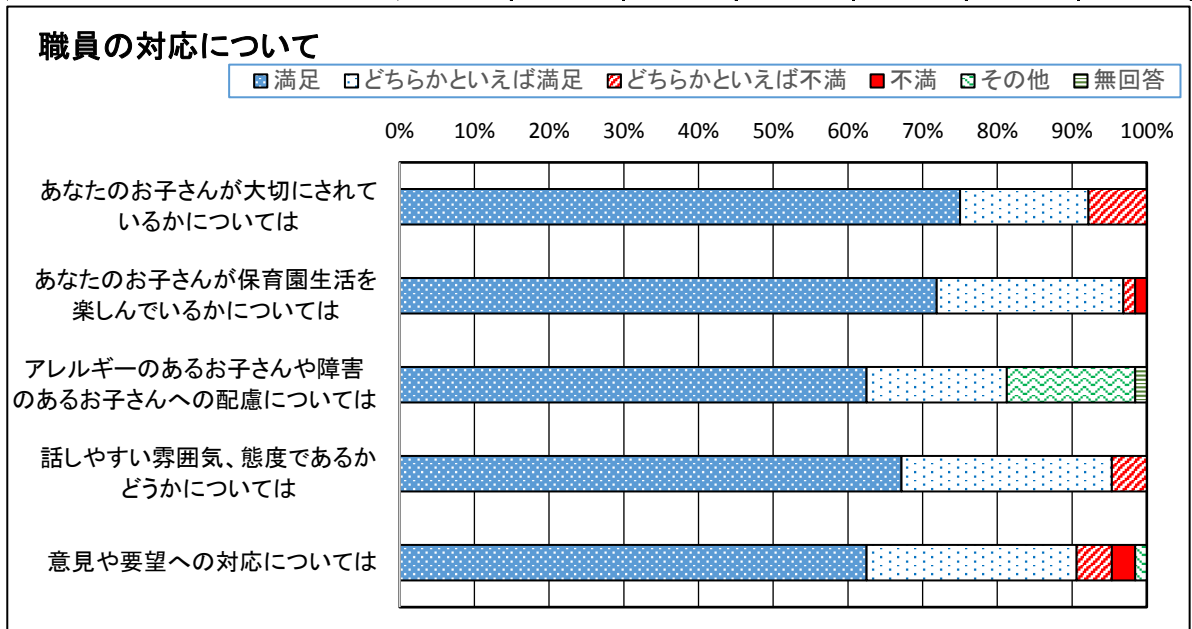
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	65.6%	29.7%	3.1%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	64.1%	28.1%	4.7%	1.6%	1.6%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	62.5%	29.7%	6.3%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	37.5%	39.1%	14.1%	6.3%	1.6%	1.6%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	50.0%	31.3%	7.8%	4.7%	4.7%	1.6%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	64.1%	21.9%	9.4%	1.6%	1.6%	1.6%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	56.3%	26.6%	6.3%	1.6%	7.8%	1.6%	100.0%

園と保護者との連携・交流について



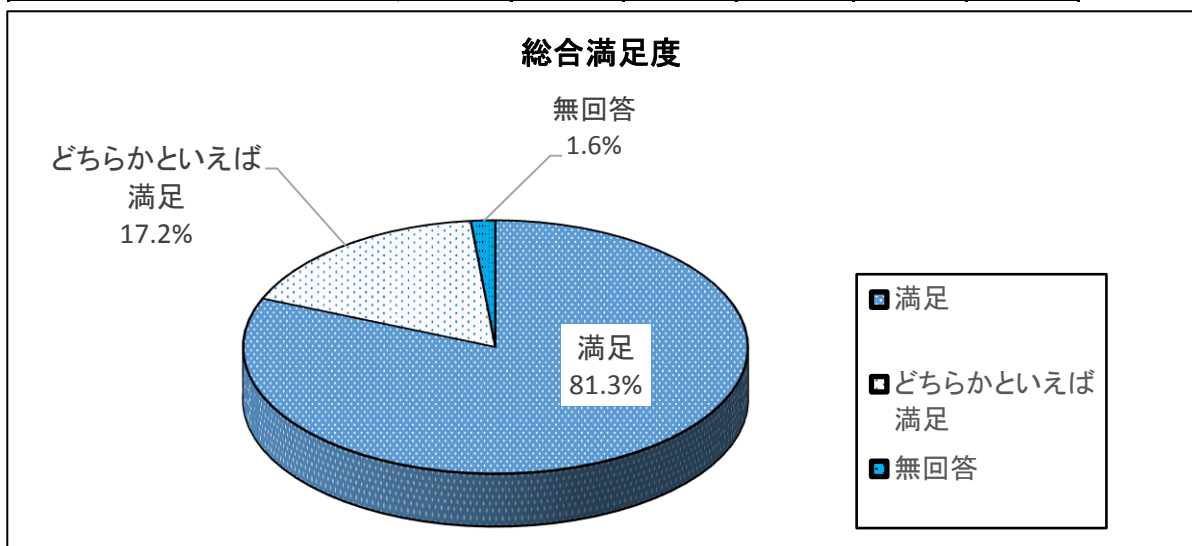
問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	75.0%	17.2%	7.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	71.9%	25.0%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	62.5%	18.8%	0.0%	0.0%	17.2%	1.6%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	67.2%	28.1%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	62.5%	28.1%	4.7%	3.1%	1.6%	0.0%	100.0%



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	81.3%	17.2%	0.0%	0.0%	1.6%	100.0%



利用者（園児）本人調査 分析

◆観察調査 ①3月27日（月）9：00～12：40 ②3月29日（水）8：50～12：40

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児クラス

午前中のおやつ時間、保育士が「みてみて、これなーんだ？」「オレンジっていうの」と言い、子どもたちの前で、食べやすいように包丁で切ってみせました。嬉しそうに机を両手でたたく子どもがいると、「待ち遠しいね。お茶飲みながら待っていてね」と保育士が話しかけました。

保育室内の遊びでは、音楽をかけながら踊ったり、子どもたちが棚から絵本や玩具など好きなものを出し、ぬいぐるみを抱っこして部屋を歩いたり、牛乳パック製のキューブボックスに入り込んで絵本を読んだり、おままごとの野菜をおたまですくってお椀に入れるなどして遊んでいます。

ホールでは、木製のすべり台と、はしごを横に設置して遊びます。保育士が「順番こ」「〇〇ちゃんの次ね」など声をかけ、「できるかな？」と保育士は子どもを支えながら、足の置き場を教えていました。その後、どんぐりの曲をピアノで弾きはじめると、子どもたちが、ゴロゴロと床に寝転がり、リズム遊びが始まりました。ウサギ、カメ、トンボとテンポよく進め、おもちゃのチャチャチャ、大きな栗の木の下で、と続け、子どもたちは手を上げたり、手をたたいたり、飛び跳ねたりして、身体を存分に動かしていました。

園庭では、砂場で山を作ったり、砂を器に入れて並べたりして遊んでいました。

食事は、フォークを使って食べる子どもが多く、保育士は、「もぐもぐもぐだよ」「お野菜も食べてみよう」など声を掛けて、スプーンにご飯を乗せるなどして手伝っていました。

◆ 1歳児クラス

朝の自由時間、ブロックを長くつなぎ合わせて畳のへりに沿って走らせて遊んだり、人形に布をかぶせてトントンしたり、保育士の膝に座って絵本を読んでもらったりして遊んでいます。一人が寝転びカメの真似を始めると、保育士が歌を歌いだし、何人かが集まってきてリズム遊びが始まりました。保育士は「上手」「すごい」などと褒めながら、カメや馬、ロンドン橋等を歌います。うさぎ跳びのリクエストが子どもから出ましたが、保育士が「それはホールでしょうね」と話していました。

5歳児クラスと合同の散歩では、5歳児クラスの子どもが1歳児クラスの子どもを膝にのせてすべり台をしていました。5歳児クラスの子どもを真似て、鉄棒にぶら下がったり、木登りに挑戦する子どももいました。

保育室では、数名ずつ、絵の具で絵を描く遊びをしました。子どもたちは、線や点を描いたりして、画用紙いっぱいに絵の具を塗っていました。保育士は「にょろにょろだね」「てんでんだ、すごいね」など言葉をかけていました。自由遊びでは、ままごとのコーナーが人気で、エプロンや三角巾を付けて、皿やなべに、野菜やケーキの玩具などを積み上げている子どももいました。

食事の時間は、「お肉はフォークを使おうね」「よく噛もうね」などの言葉かけがあり、スプーンとフォークを上手に使っていました。

◆ 2歳児クラス

午前のおやつを食べ終わってうがいをすると、各自で絵本を読んだり、保育士の膝の上で絵本を読んでもらったりしています。積み木やおままごとをして遊んでいる子どもがいます。製作では、少人数で、鳥の形の画用紙に、小さな正方形の色紙をのりで貼っていました。

散歩に行く前には、「車やバイクがきたらどうするんだっけ？」「近所の人やお友達に会ったらどうす

る？」など、子どもたちが交通ルールや約束事について話していました。隣接する高齢者施設に立ち寄り、子どもたちは、お花見をさせてもらいました。

保育園の駐車場を使って、三輪車遊びを始めました。三輪車は全員分が無いため言いあらそいが起きていました。保育士が「全然三輪車乗っていない子がいるから貸してあげようね。そのかわり先生と一緒にどんぐりみつけよう」など、乗っている子どもたちに声をかけていました。

保育室に戻ると、手洗いをし、うがいの練習をしています。オムツを替える子どもには、子どもたちのできる範囲に合わせて、手伝う箇所を変えていました。

食事前には、手遊びや紙芝居、絵本の読み聞かせを行い、食事中は子ども同士会話を楽しんでいました。子どもが「ごはん」と言っておかわりを希望すると、保育士が「ごはんが何ですか？」と聞き直し、子どもは「ごはんをください」と言い直していました。

◆ 3歳児クラス

朝の自由時間、子どもたちはテーブルやままごとコーナーなどで好きな遊びをしています。「こうする？」などと話し合いながら、積み木を自分の背の高さほどに積み上げると「できたー！」と2人で喜びあっていました。ぬいぐるみでごっこ遊びをしたり、ホールに行つてリズム遊びをしている子どももいます。

朝の会では歌を数曲うたい、出欠を取りました。その後、「このお部屋で遊んだり、給食食べたり、寝たり色々したよね。ありがとうしてお掃除します」と保育士が説明をして、大掃除が始まりました。

お道具箱を雑巾で拭き終わると、椅子の座面や脚、脚の裏を子どもたちが拭いていきます。最後に、子どもたちが半分に分かれて、横一列に並び、保育士の「いちについて、よーいどん！」のかけ声で床を拭いていきます。園長が保育室に来て「みんなすっかりきれいになったね」と褒めると、子どもたちは「だつてもう少しでにじ組さんになる！」と元気に話していました。

製作では、絵の具を使って、「花火」「りんご」「おはな」「にじいろ」「きんたろう」など自由に描いていました。

食事の時間になると、自分のランチョンマットを持ってホールに行きます。保育士がご飯の量を聞いて調整をしながら各自のトレーに乗せていきました。

◆ 4歳児クラス

朝の自由時間、テーブルや床、おままごとコーナーで、子どもたちは好きな玩具や素材を取り出して遊んでいます。ビーズをしたり、広告を丸め棒にして銃に見立てたり、空き箱の上で、折り紙で作ったものを使ってトントン相撲をしたり、椅子を並べて会話を楽しんだり、卵のパックと菓子の箱をテープでつなげてワニを作ったりしています。

朝の会では何曲か歌ったあと、出欠をとりました。保育士が「今日のお休みは？」と言うと、子どもたちが一斉に「〇〇ちゃんと〇〇くんがお休みです」と答え、保育士が「今日は何人かな」と聞くと「17人！」と答えました。保育士が「今日は何をするのかな？」という子どもたちが「クッキング！」と答えます。

クッキングは、2つのグループに分かれて行いました。みんなで材料をはかり、順番に混ぜていきます。卵を割る子どもはジャンケンで決めていました。「おいしくなあれ」「次〇〇ちゃんだよ」「そつとだよ」など子ども同士で声をかけあっていました。型抜きは、1列になって、好きな型を選んで行いました。

ホールでは、ハイハイをしてカルタを取りに行く遊びや、じゃんけん列車というゲームをみんなでしていました。

食事は、ホールで各自配膳を行い、テーブルごとに「いただきます」をして食べ始め、賑やかな食事時間を過ごしていました。

◆ 5 歳児クラス（異年齢クラスとのかかわりを含む）

朝の自由時間は、ホールでリズム遊びをしたり、保育室で集中してパズルをしたり、おしゃべりをしながら廃材製作をするなど、好きなことをして遊んでいます。保育士と合奏をしたり、絵本の修理をしている子どももいます。

ホールのリズム遊びは、3、4、5 歳児クラスの子どもたちが混ざって、ピアノに合わせて歌いながら、トンボ、金魚、自転車こぎ、ロンドン橋、船、海など、テンポよく進んでいきます。子どもたちは最初の音を聞いただけで、次に動作に移っていました。みんな笑顔でのびのびと身体を動かしています。参加しないで見学している子どももいました。

朝の会では、担任が今日の大掃除の予定や片付けの手順などを白板に書いていき、子どもたちは声を出して読んでいきました。

大掃除では、テーブルごとにお道具箱を取りに行って整理が始まります。うまく片付けることができない子どもを手伝う子どももいました。

1 歳児クラスと合同で散歩に行くときには、1 歳児クラスの子どもがコートを着たり靴を履いたりするのを、5 歳児クラスの子どもが手伝っていました。1 歳児クラスと 5 歳児クラスの子どもでペアを組み、公園に向けて歩いていきました。公園では、最初は 5 歳児クラスの子どもが、1 歳児クラスの子どもの面倒を見て遊んでいましたが、そのうちに 5 歳児クラスの中から鬼ごっこをしたいと言う声があがり、自然に 5 歳児クラスの子ども同士で遊びだしました。斜面や公園全面を使って鬼ごっこをして、ルールは自分たちで決めているようでした。

食事に向けて、子どもたちがホールでテーブルと椅子を並べ、テーブルを拭き、セッティングを行っていました。配膳は各自で行い、会話をしながら食事をしていました。

事業者コメント

今回の第三評価は、職員とともに自己評価をしてから公表までに時間がかかりました。その間、見直し、改善、周知と気づいたことから取り掛かり実地調査を受ける現状でした。

保護者の皆様には、年度末のお忙しい時期に、アンケートのご協力をいただきまして感謝申し上げます。公表内容にもありますが、ご意見を丁寧に書いてくださる保護者が多く、皆様の保育園、子育てに対する意識が高いことを評価会社の調査員の方とも認識しました。ありがとうございます。

「総合的な満足度評価」においては、満足で 81.3%、どちらかといえば満足を合わせると 98.5%と高い評価をいただきましたので、職員の励みになり、また、より一層の努力をしていく励みにもなりました。

「送迎時、保育者との情報交換」をはじめ、お子様の個別の姿をお伝えする手段は努力義務があることも認識しました。保護者の安心感が子どもの安心感につながることを職員とも確認し、29 年度をスタートしております。

私たち職員が行う自己評価、話し合いの段階では、常勤・非常勤・給食職員ともに、自分たちの対応に真摯に向き合い厳しいジャッジをして課題を見つけ、それに取り組む体制の話し合いをしました。また、評価項目を踏まえて、「子どもにとって最善であるとは、具体的にどういうことなのか」を再考し、より一層の理念・保育観の方向性確認ができたことが大きな収穫であったかと思えます。

私たち職員の自己評価結果より、実地調査をしていただいた結果のほうが良い評価になっていましたので、安心もいたしましたが、これに甘んじず、時代の変化も加味しながら、お子様にとっても保護者の皆様にとっても、信頼とホッと休まる保育園であり続けられるよう努力をしてみたいです。

また、保育園職員に留まらず、地域のボランティアや小・中・高校、老人福祉施設の方々のおかげで、保育内容に厚みがでているものと感謝しております。

今後とも、子どものため、保護者のため、地域のため、職員のために、より充実した施設になるよう皆様の力を借りながら努めてまいります。

評価会社である市民セクターよこはまの方々とも、年度末のお忙しい中、建設的に話が進められ情報交換もしていただき、有意義な時間が持てたことを嬉しく思っております。ありがとうございました。

オハナ上永谷保育園
園長 小林 千恵

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見ることができます ～

- 市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

- 横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

- かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
